2024_0823「八島湿原のヤナギラン（写真）」日々の理科 3669 号

お茶の水女子大学　サイエンス＆エデュケーション研究所　田中　千尋

・

ヤナギランは、日本では高原の植物で、やや珍しい野草です。「あのあたりにはヤナギランがたくさん咲いている」と聞けば、わざわざ見に出かけるほどです。花序の見た目はアブラナ科の植物のようにも見えますが、ツキミソウに近い仲間の「アカバナ科」に属します。種子は綿毛に覆われ、それで風にのって拡散するのです。

日本ではあまり見かけないヤナギランも、スウェーデン北部の北極圏では、ごく普通の植物です。夏のラップランドにはヤナギランしか咲いていないと思われるほど、この花をよく見かけます。現地では「ララローセン」と呼ばれ、私の友人はこれを自分のレストランの名称にしていました。飛行機の窓から見ると、場所によってはヤナギランの大群落で地面がピンク色に見えるほどです。

霧ヶ峰の八島湿原でも、ところどころにヤナギランの群落が見られます。もちろん草原を覆いつくすような群落ではなく、何十本かがまとまって見られるという程度です。しかしほとんどのハイカーは足を止めて、写真を撮っていました。

（2024 年 8 月上旬／長野県八島湿原）